

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 特別活動)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校特別活動における目標、評価の観点のその趣旨について
- 3 小学校特別活動における学習評価の進め方
- 4 小学校特別活動における学習評価事例
- 5 小学校特別活動における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落とししていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 新学習指導要領における特別活動の評価の観点

特別活動における評価の観点は、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校で定めることとされています。その参考として、初等中等教育局長通知（H22.5.11）に3つの観点が例示されました。その3つの観点は、学校教育法における学力の3要素を反映させたものとなっています。

学力の3要素	特別活動の評価の観点(例示)
○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得	○ 集団活動や生活についての知識・理解
○ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	○ 集団の一員としての思考・判断・実践
○ 学習意欲	○ 集団活動や生活への関心・意欲・態度

(2) 例示された評価の観点の考え方

参考のために例示された3つの評価の観点は、特別活動の特質を踏まえ、次のような考え方に立って設定してあります。

「集団活動や生活への関心・意欲・態度」
児童が学級や学校の集団活動や生活にどれだけ関心を持ちどれだけ敏感に問題に気づき、自分の問題として受け止めて、その解決のためにどれだけ意欲的に取り組もうとしているか、また、そうした取組を通して、どれだけ向上心をもってよりよい態度を身に付けようとしているかなどを見取ります。
「集団の一員としての思考・判断・実践」
特別活動の目標の根幹をなす中心的な評価の観点です。集団活動の中で、児童が集団の一員として何をどのように考え、判断し、表現し、工夫しようとしているかなどなどの思考の様相を見取ります。
「集団活動や生活についての知識・理解」
望ましい集団活動を通して児童が実践を通して理解することを大切にしつつ、どのようなことを、どのように理解しているかを見取ります。

1 目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

⇒ 道徳的実践の指導の一層の充実を図り、豊かな人間性や社会性、自律性を備えた児童を育てることを目指したことにより「人間関係」「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」が新たに目標に加えられました。

2 評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

- 小・中学校の指導の一貫性に配慮して、観点及びその趣旨が例示されました。
- これまでの4観点から、3観点を例が示されました。
- 各学校において評価の観点を定めることができるようになりました。

各学校で評価の観点を定める際にはどんなところに気を付けるの？

- 特別活動全体に係る観点と趣旨を明確に示します。
- 例示された「集団活動や生活への関心・意欲・態度」「集団の一員としての思考・判断・実践」「集団活動や生活についての知識・理解」を参考に、3つ程度の観点を作成します。
- 各学校で、より具体的な観点を設定することが可能です。
各学校の児童の実態や身に付けさせたい力を吟味して設定します。

特別活動の中心的な目標である「自主的、実践的な態度」の育成、目標に新たに追加された「望ましい人間関係」の育成については意識して作成しましょう。

【例示された評価の観点に学校としての観点を設定した例】

観 点	集団や自他の生活向上への 関心・意欲・ 態度	よりよい生活や 人間関係を築く力	学級会や健全な生活の仕方につ いての知識・理解・ 技能
趣 旨	学級や学校の集団の生活や自分や他者の生活を向上させることに 関心をもち、そのために積極的に 活動に取り組もうとする。	多様な他者とかかわり、望ましい 人間関係を築くとともに、自己の よさを発揮しながら、集団(社会) に寄与するなどして、協力してよ りよい生活を築こうとする。	学級会の役割・進め方や健全な生 活の仕方などについて理解し、そ の技能を身に付けている。
学校として変更した点	〈観点の一部を具体化〉 「生活」を「自他の生活向上」と 具体的に表した。 〈観点の要素を削除〉 関心・意欲に絞って評価をしてい くこととする考え。	〈観点を変更〉 特別活動の目標から「よりよい生 活や人間関係」に焦点化した。	〈観点の一部を具体化〉 「学級会」という言葉を入れ、具 体的に表した。 〈観点の要素を追加〉 知識・理解だけでなく、技能を身 に付けるところまでを求めるた め「技能」を追加した。

3 内容のまとまりごとの評価に盛り込むべき事項

各学校において定めた評価の観点に沿って学級活動(1)、(2)の低・中・高学年別、児童会活動、クラブ活動、の各活動と学校行事の評価規準を作成します。ここでは、国立教育政策研究所において例示されている中から学級活動について示します。

【学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
第1・2学年	学級の身の回りの問題に関心をもち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しむための話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しむことの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。
第3・4学年	学級の生活上の問題に関心をもち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。
第5・6学年	学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

【学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の評価規準に盛り込むべき事項】

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
第1・2学年	自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しむために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しむことの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。
第3・4学年	自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。
第5・6学年	自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

各学校で内容のまとまりごとの評価規準を作成するにはどんなところに気を付けるの？

- 各学校で定めた評価の観点を踏まえて作成しましょう。
- 各学年の発達の段階を考慮して作成しましょう。

例えば国立教育政策研究所において例示されている【学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】の「集団の一員としての思考・判断・実践」では、語尾が「仲良く助け合って実践している。」(1・2学年)、「協力し合って実践している。」(3・4学年)、「信頼し支え合って実践している。」(5・6学年)、と発達の段階を考慮して示されています。

小学校特別活動における学習評価の進め方

どんなところに気を付けて評価をするの？

- (1) 評価は、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事のそれぞれの内容において行います。
- (2) 社会性など豊かな人間性の育成を目指す特別活動においては、個性の伸長を図る必要があります。評価は教科と違い、「十分満足できる」の幅が広く、「十分満足できる」「十分満足できていない」の2段階で評価をします。
- (3) 活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めます。児童のよい点や進歩の状況を明確にするとともに、指導の改善に生かすことが大切です。
- (4) 毎時間、全ての観点を評価する必要はありません。必要以上に評価の機会を設けることで、多大な時間を要するようになっていたり、児童と十分関わることができなくなったりしないようにしましょう。
- (5) 特別活動は、学級活動のように主として学級担任が指導する内容もありますが、児童会活動やクラブ活動、学校行事のように学級担任ではない教師が指導に当たる場合があります。直接児童に関わった教師が評価をすることで多面的な評価が可能となります。そこで、次のア～エのことに配慮し、多くの教師による評価の結果を反映させるなど、学校としての指導体制を確立することが大切です。

ア 個々の児童の活動状況について担当する教師との間で情報交換を密にすること。

イ 評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に収集され、活用されるようにすること。

ウ 必要に応じて評価した結果を全教師が共有し、指導に生かせるようにすること。

エ 年間を通してより多くの教師の目で「個人の変容」や「集団の変容」について評価すること。

- (6) 指導要録や家庭への通知表には、評価の観点に照らして、十分に満足できる活動の状況にある場合に○を付けます。特別活動において、教科のようにA B Cの3段階で評価することは望ましくありません。



各観点の評価方法は？

☆【集団や生活への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

この観点は、児童が各活動・学校行事に興味・関心をもち、積極的に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった活動状況を評価するものです。

単に、挙手や発言の回数、授業態度の善し悪しだけで見るのではなく、その活動のねらいを踏まえて、活動内容に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。

⇒例えば、行動の観察、発言の内容、学級会ノートの記述、ふり返しカードの記述、チェックカード、質問紙等で見取することができます。

☆【集団の一員としての思考・判断・実践】は、どうやって評価するの？

この観点は、各活動・学校行事において、望ましい人間関係を築いたり、集団の一員としての役割を自覚したりするために「考える」「判断する」「言動に表す」児童の姿を評価するものです。

特別活動ではこの「考える」「判断する」「言動に表す」が一体的に行われる場合が多く見られます。
⇒例えば、行動の観察、発言の内容、学級会ノートの記述、ふり返りカードの記述、チェックカード等で見取ることができます。

☆【集団活動や生活についての知識・理解】は、どうやって評価するの？

この観点は、各活動・学校行事において、集団活動の意義や話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方等を理解しているかということの評価するものです。

学級活動では、話し合い活動の仕方を学期末に質問紙によって評価するなど、長期的なスパンで見取することも考えられます。
⇒例えば、行動の観察、質問紙、チェックカード等で見取することができます。

小学校特別活動における学習評価事例 1

■ 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の事例

- 1 議題 ほかほか1年生とわくわく交流会をしよう
- 2 議題について(略)
- 3 第3学年及び4学年の評価規準

ここでは、国立教育政策研究所(本リーフレットP3)のものを載せていますが、各学校で評価の観点を設定した場合は、それに伴って作成した評価規準を示してください。

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の生活上の問題に関心を持ち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽し学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

月/日	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
9/6	○ 議題の呼びかけ (全員) ・ 学校行事との関わりから ・ 学校生活での諸問題の解決や集会、地域との関わりなどから	・ 2学期の学級生活が1学期よりも更に楽しくなるような議題、地域やボランティアなどにも視野を広げるような議題を考えるよう子どもたちに提案する。	評価規準を基に、学級の実態に応じて、「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童の姿をいくつか想定しておくようにします。
9/12	○ 議題の整理 (全員) ・ 取り上げたい議題について	・ できるだけみんなの願いがかねえられるように助言する。 1年生への意識調査	

9/19	○ 議題名決定 (計画委員会) 「ほかほか1年生と元気いっぱい集会の計画を立てよう」	・わくわくするような議題名になる工夫をするよう助言する。	【知識・理解】 ・集会を開くために話し合わなければならないことが分かり、小柱やめあての決め方が分かっている。 ・計画委員として気を付けることを活動計画書に書いている。 〈活動計画〉
9/21	○ 計画委員の役割分担 (計画委員会)		
10/5	○ 小柱を決める (計画委員会) ○ 話合いのめあて決め (計画委員会)		
10/6	○ 活動計画の発表 (計画委員会) ○ 議題への思い (全員)	・「議題への思い」を数人に読ませ、話合いへの意欲付けをする。	【関心・意欲・態度】 ・集会の目的に合った内容や工夫を学級会ノートに書いている。 〈学級会ノート〉
10/9	○ 学級会ノートを書く	・「議題への思い」の作文を参考にしながら自分の考えを学級会ノートに書く。	
10/10	○ 諸準備 (計画委員会)		
10/11			

次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。

資料①

5 本時の展開

- (1) 児童の活動計画(略)
- (2) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		
2 歌	・児童と一緒に学級の歌を歌い、気持ちをはぐし意見を言いやすい雰囲気作りをする。	
3 司会グループの紹介		
4 議題・提案理由・柱の確認	・提案者には提案理由を発表させ改めて全員に確認させる。 ・話合いの柱を確認することで見通しと意欲をもたせる。	
5 決まっていることの確認	・決まっていることを提示し確認する。	
6 話合い (1) 発表をする。 柱①「どのゲームをすれば1年生が喜んでくれるだろうか」 柱②「集会を盛り上げる工夫を考えよう」 (2) 意見が変わった人はもう一度発表する。	・司会者には、なるべくたくさんの児童を指名させるようにする。 ・話合いのめあてを意識させ、よりよい話合いを心がけさせる。 ・話合いが停滞したときは、小集団での話合いを取り入れさせる。	【思考・判断・実践】 ・めあてや提案理由に沿った意見を発表している。 ・集会を有意義なものにするための内容や工夫を、今までの経験を生かして考えたり、発表したりしている ・1年生などから情報を収集して考

(3) 司会がまとめる。		えたことを発表している。
7 決まったことの発表		・ 友達の発言について、相手を受け止めようという意識をもって聞いている。 ・ 友達の意見を参考にして新たな意見や折衷案を発言している。
8 話合いの振り返り	・ 本時の話合いの振り返りを、個人ノートに記入させる。	次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。 〈学級会ノート・観察〉 資料①、資料② 【関心・意欲・態度】 ・ 1年生のことを考え、上級生として楽しい集会にしようとする意欲をもっている。
9 先生の話	・ 話合いの評価と個人に対する称賛を行い、今後の実践活動に向けて意欲付けをする。	〈学級会ノート〉 資料① 次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。
10 閉会する。		

6 事後の活動

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10/14 ～	○ 集会の準備	・ 決定したことに基づき、必要な仕事をみんなで協力して進められるように働き掛ける。	【関心・意欲・態度】 ・ わくわく集会の準備に進んで取り組もうとしている。 ・ 自分の役割に進んで取り組もうとしている。 〈観察〉
10/20	○ 1年生との集会	・ 集会のねらいを確認し、みんなで協力して会を盛り上げられるようにする。	【思考・判断・実践】 ・ 集会の自分の役割を責任をもって行っている。 ・ 友達と協力して集会の活動に取り組んでいる。 ・ 集会後にめあてに関わる自分の感想や友だちのがんばりについて発表したり、ふり回りカードに書いたりしている。 〈観察・ふり回りカード〉
10/20	○ 振り返り	・ 自分たちの活動に対する達成感を味わわせ、次の実践へ生かされるようにする。	次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。 資料③

学級活動(1)の評価方法は？

(1) 事前活動における評価方法の例

事前活動として、児童が書く学級会ノート〈資料①〉やアンケート調査などを指導と評価の参考にすることができます。また、計画委員会については、学級会の活動計画の作成や準備をする活動などを観察しながら評価をし、指導に生かしていくこともできます。

(2) 本時や事後の活動における評価方法の例

話し合い活動の評価についてはねらいや提案理由に沿って考え、発表しているかなどを見
 児童の活動の状況から見取ります。その際、学級会ノートやチェックカード<資料②>、ふり
 返しカード、実践に向けて頑張りたいことを書かせたものなどを評価や指導の参考にする
 ことができます。

事後の活動の評価では、児童の活動の様子を学級会ノート<資料①>や事後の活動のふり
 返しカード<資料③>などを活用して評価し、指導の改善に生かすことができます。

<資料① 学級会ノート>

【関心・意欲・態度】について、
 集会のねらいや提案理由に沿っ
 て、自分の考えを書いているかど
 うかを評価します。

話し合い活動の振り返りをするこ
 とで、児童自身の自己評価の力を
 高めたり、【思考・判断・実践】
 の評価の参考にしたりします。

【関心・意欲・態度】について、
 話し合いで決まったことへの意欲
 を見取る際の参考にします。

第()回 学級会ノート (月 日 曜日 時間目)	
議 題	ほかほか1年生と元気いっぱい集会の計画を立てよう
提案理由	4年生になっても自分が通ってきた上級生としてみんなのために何かを 4年生の道徳で学んだことを、1年生に伝えたい。先にお話しした1 年生と集会をやることに決めた。4年生の道徳で学んだことを伝えたい。決めた。
司会グループ ()班	司会 黒板記録 進行 ノート記録
話し合いの めあて	1年生がほかほかの気持ちになるような集会の内容や工夫を相手の気持ち になって、いっしょに考えてみよう。
話し合いの順序	計画委員会で決めたこと
1 はじめの言葉	・期日 10月20日(木) ・時間目 3時間目
2 クラスの歌	・プログラム
3 話し合い	1 はじめのことば 2 歌「さんぽ」 3 学級のいっしょがい 4 めいしうが 5 ゲーム「」 6 今日のめいし 7 おおのめいし
柱1 どのゲームにすれば1年生がよくなるか考える	
柱2 集会をより上げる工夫を考える	
4 決まったことの発表	5 話し合いの気づき「〇〇賞」の発表
6 先生の話	7 終わりの言葉
☆話し合いのめあてを考えた話し合うことができましたか (よくできた) (できた) (もう少し) ☆友達の意見のよいところを考えながら聞くことができましたか (よくできた) (できた) (もう少し) ☆自分の意見を進んで発表できましたか (よくできた) (できた) (もう少し) ☆決まったことや自分が何をしたか振り返りましたか (よくできた) (できた) (もう少し) ☆決まったことや自分の役割について、これから (よくできた) (できた) (もう少し) らががんばりたいこと (よくできた) (できた) (もう少し)	

<資料② 児童の発言から【思考・判断・実践】を見取るチェックカード>

月 日 ()	議題	児童名	話し合いのめあてや提案理由に沿った意見を発言している。	自分の経験を基にした意見を発表している。	情報収集して考えた意見を発表している。	友達の意見に質問をしたり付け加えをしたりしている。	まとめる意見を発言している。	集団決定に向かうための	メモ
1	〇〇 〇〇	〇							
2	〇〇 〇〇				〇	〇			
3	〇〇 〇〇	〇				〇	〇		少数意見のアイディアを取り入れた意見を発表。

児童の発言から、その都度〇を付けます。
 学期末や年度末の評価の参考にすることが
 できます。

特によい発言をメモし、授業の最後に称
 賛したり、学期末や年度末の評価の参考
 にしたりします。

＜資料③ 事後の活動のふり振り返りカード＞

ほかほか1年生と元気いっぱい集会をふり返ろう		
年 組 名 前 ()		
自分のめあて	1年生と楽しくなるために、たくさん話をし かりする	
準備や役わり	めいしづくり たからのかたづくり はじめのこぼれをいっしょに	
《集会をふり返りましょう》		
☆集会のめあてや自分のめあては守れましたか	できた	もう少し
☆自分の役わりをがんばりましたか	できた	もう少し
☆友達と協力し合って楽しく活動できましたか	できた	もう少し
☆感想を書きましょう		
ぼくはたからさがしの時、1人になった。さんがぼくが ぼくがさがしにきてくれて、ぼくはわけていたのど 「おのちがきを見てはじめてを出しました。そしたら 見つけてようこんでいたのどうれしかったです。めいし こうかて、ぼくは1年生と楽しく、お話をしな え、たくさんお話をしました。 かかりは、はじめのこぼれでした。さんと さんと、けさをくっつけてみました。みんなが楽し くれたのどうれしかったです。		

集会のめあてに沿った「自分のめあて」を立てることができているかということを見取ります。【関心・意欲・態度】を評価することができます。

ここでは集会のめあてに基づいて協力して準備をしたり実践したりしているか、他者を意識して考えたり実践したりしているかということを見取ります。
この児童の場合、相手意識をもって活動していることや、友達と協力したり工夫したりして取り組んでいることから【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

カードだけに頼らず、実践の様子を観察することと組み合わせて評価をすると効果的です。

小学校特別活動における学習評価事例2

■ 学級活動(2) 「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の事例

ここでは、児童が自分に合った適切な実践課題について考え自己決定し、その決定に従って適切に判断し、真剣に実践させることができるようにすることを重視して授業を展開し、【集団の一員としての思考・判断・実践】に重点化して評価した例を紹介します。

- 1 題材 「忘れ物をたいじしよう」 イ 基本的な生活習慣
- 2 題材について(略)
- 3 第3学年及び第4学年の評価規準

ここでは、国立教育政策研究所(本手引ではP3掲載)のものを載せていますが、各学校で評価の観点を設定した場合は、それに伴って作成した評価規準を示してください。

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

忘れ物をしないことの大切さに気付き、忘れ物をなくそうという意欲をもち、実践しようとする。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
○ 忘れ物アンケートをする。	○ 忘れ物アンケートにより、自分自身の忘れ物に対する意識を振り返らせる。	
○ 自分の忘れ物調べに取り組む。	○ 一週間自分の忘れ物の状況を調べさせ、課題意識をもたせる。	

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	資 料	目指す児童の姿と評価方法
導入 5分	1 忘れ物をしたときの気持ちを振り返る。 2 学級全体の忘れ物の実態を知る。	- 忘れ物をしたときに困ったことや気まずかったことなどを思い起こさせるようにする。 - 学級全体の忘れ物の数や種類を知らせ、どんなことに気を付ければ忘れ物を減らせるかを考えるヒントにする。	忘れ物アンケート 学級の忘れ物の表	【思考・判断・実践】 忘れ物をしないことの大切さを考え、友達の考えを参考にしながら忘れ物をなくすための具体的なめあてを決めて進んで実践しようとする。 〈学習カード・観察〉 資料① 次の「学級活動(2)の評価方法は？」の項に示しています。
展開 25分	3 なぜ忘れ物をしてしまうのかを考える。 4 忘れ物をしないことがなぜ大切なのか考える。	- 忘れ物をしてしまう原因について考えを出し合わせることで、自分自身の生活を振り返らせる。 - 忘れ物を1つして、うれしかった児童と悲しかった児童の気持ちの違いを考えさせることで、忘れ物をしないという意識をもつことの大切さに気付かせる。 - 忘れ物をしないことの大切さについて考えを出し合わせることで、価値の共有化を図るようにする。	忘れ物アンケート	
終末 15分	5 忘れ物をしないための方法を考え、頑張ることを決める。 〈自己決定〉 6 頑張ることを友達とお互いに伝え合う。 7 教師の話聞く。	- 自己決定の内容が、自分自身のこれまでもを振り返り、実践に向けて具体的なものになっているか、グループで意見交換させ、確認するようにする。 - 友達とお互いのめあてを伝え合い、それについてコメントをもらうようにすることで、これからの実践に向け、意欲を高めるようにする。	実践のふり振り返りカード	

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
○ 自分の立てためあてを基に実践活動をする。 ○ 友達同士で取組を確認し合う。	- 立てためあてを実践させ、ふり振り返りカードで振り返りをさせ、継続した取組になるように助言する。 - 帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いの頑張りを認め励まし合いながら、実践の継続化を図るようにする。	【思考・判断・実践】 友達と取組の確認をし合いながら、自分が決めためあてを進んで実践している。 〈ふり振り返りカード〉 資料② 次の「学級活動(2)の評価方法は？」の項に示しています。

学級活動(2)の評価方法は？

(1) 評価の観点の重点化の例

学級活動(2)においては、題材によって、事前、本時、事後の活動過程を通して、中心的に見取る評価の観点を重点化することが考えられます。例えば「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導で、「正しい歯の磨き方」を取り扱う場合は【知識・理解】に重点を置いたり、「たばこの害」などの予防的、発展的な内容については【関心・意欲・態度】に重点を置いたりすることが考えられます。

(2) 学級活動(2)における評価方法の例

児童の行動や変容など、教師の行動観察により見取る場合が中心となりますが、学習カード<資料①>や実践活動後のふり回りカード<資料②>などを活用して指導と評価の参考にすることができます。

<資料① 学習カード>

学級活動「わすれものをたいじしよう」
3年 組 ()

1 なぜわすれものをしないことは大切なんでしょう。

自分で考えたこと	友達の考えを聞いて分かったこと
自分がこまるし、友だちにかりた	あんなにならたときにわすれ
ら友だちもこまるから。	のをしていたらしごとでもこまる
	から、今から気を付ける。

2 わすれものをしないために自分が取り組むことを書きましょう。

時間わりを、ねる前と朝に見てたしかめる。

本時で学習した内容についてどう考え判断しているのかを見取ります。

この児童の場合、忘れものをしないことの大切さを自分で考え、更に友達の考えを聞いた上で「今から気を付けたい」と記述していることから、【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

【思考・判断・実践】

自分に合った具体的なめあてになっているかを見取ります。

<資料② ふり回りカード>

わすれものふりかえりカード
3年 名前 ()

☆ こんなことをがんばるよ。

しゅくだいのあと、すぐあしたのよういをする。

☆ 自分できめたがんばることをでれぐらいがんばることができたかな。

	10日(金)	13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)
わすれたもの		たいそうふく マスク			
数	0	2	0	0	0
自分でできた					
いわれてできた					
できなかった					

☆ 一週間やってみた感想

月曜日、せんたくをしてあった、たいそうふくとマスクをわすれてしまった。つぎの日から、ねる前と朝も時間わりを見たらわすれなかったの、うれしかった。

学習カードだけでなく、メモを取るなどして、発言の内容や活動の様子から、評価することも大切です。

この児童の場合、実践活動で、忘れものがほとんど無くなったという成果が出ていることから【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

自分で決めためあてで実践をし、うまくいかなかったことを改善するため実践方法を見直しているところからめあて達成のために努力をしている過程を見取ることができ、【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

このように、成果だけでなく、活動過程の努力の様子を認めて評価することが大切です。

小学校特別活動における学習評価の進め方Q & A

Q 児童会活動やクラブ活動の評価はどのように行えばよいですか。

A 学級担任以外の教師が指導に当たることが多いことから、児童会活動やクラブにおける「目指す児童の姿」を明確にし、全ての教師が共通理解をもって指導と評価に当たることが大切です。

クラブ活動においては、共通理解した評価項目を起こした「評価カード」を作成し記録をします。その際、評価項目全部を毎回評価するのではなく、日によって人数や項目を絞るなどして、学期を通して全員の全項目を見るようにします。十分満足できる状況が見られた場合、○を付けます。その結果を「学級担任連絡カード」等に転記し、学級担任に渡すようにします。

Q 学校行事の評価はどのように行えばよいですか。

A 学校行事には、「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」の5種類がありますが、それぞれに評価規準を設定し、これに基づいて評価を行います。学校行事においては、全ての児童の活動の状況を直接見取ることが困難であり、学級担任以外の教師が評価しなければなりません。そこで、どの学校行事にも共通して活用できる評価カードを作成することも工夫の一つです。〈資料①〉

また、言語活動の充実を図る観点から、児童が活動を振り返ってまとめたカードや感想文、発表内容など、児童が書いた文章や表現から読み取り、評価の参考にすることも考えられます。その際、児童の日頃の学校行事への活動の取組の様子なども踏まえ、積極的に児童のよさや可能性を見取るようにしましょう。

〈資料① どの学校行事も共通して活用できる評価カード〉

行事名 < > 月 日 ()		関心・意欲・態度		思考・判断・実践		知識・理解	メモ
項目 名前	学校行事を楽しみにしている。	進んで参加している。	めあてに向かって自分の責任を果たしている。	安全やマナーに気を付けて参加している。	学校行事の意義を理解している。		
〇〇 〇〇							
〇〇 〇〇							

〈この手引きは、以下のものを基に作成しています〉

- ・ 国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等工夫改善のための参考資料」（小学校）
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>
- ・ 文部科学省 『初等教育資料』 No.871
- ・ 杉田 洋 『新評価規準を生かす授業づくり小学校編』 ぎょうせい